



カーボンニュートラルに繋がる環境美化活動“SDG s 脱炭素花壇”について

J A 愛知信連は、GHG（温室効果ガス）削減への貢献および環境美化活動の一環として、名古屋大学発スタートアップの株式会社TOWING（以下「TOWING」という。）の脱炭素効果のある高機能苗「宙苗（そらなえ）※」を用いた「SDG s 脱炭素花壇」を設置しました。

（※商標出願中。国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構が開発した人工土壌の技術に基づき、TOWINGが高機能な苗として実用化）

SDG s 脱炭素花壇は、J A あいちビル（名古屋市中区）前の国土交通省所管の花壇を活用し、夏冬2回、1年で計約1500株の宙苗を育成します。この花壇を設置することで、1苗あたり約150gのCO₂の削減（吸収）が期待できます（TOWINGによる試算）。

参考：CO₂量150gの目安＝ガソリン車が1km走行した場合の排出量。

J A 愛知信連は、「J A バンクあいち」の一員として、資金供給などの金融機能の提供により、農業の振興や地域社会の発展に貢献するとともに、社会貢献活動を通じて豊かでゆとりのある地域社会の実現に向けた取組みを行っています。



▲宙苗を持つJ A 愛知信連磯村常務理事（左）とTOWING西田代表取締役（右）



▲宙苗を植えるJ A 愛知信連の若手有志



JA愛知信連の SDGs脱炭素花壇

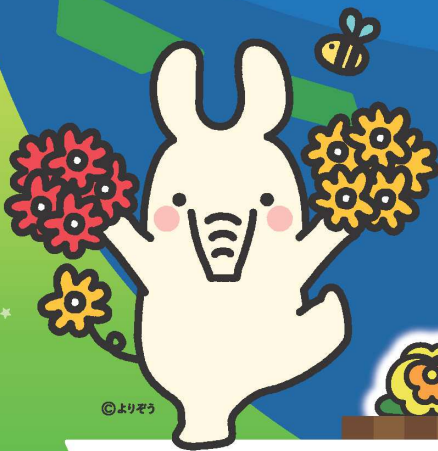
JA愛知信連と名古屋大学発
スタートアップの(株)TOWINGは、
炭素固着・吸収効果のある人工土壌
「高機能ソイル※」を活用した
「SDGs脱炭素花壇」を設置しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

13 気候変動に
具体的な対策を



17 パートナースHIPで
目標を達成しよう



©よりぞう



JA愛知信連



TOWING

※高機能ソイルとは、植物の炭等の多孔体に微生物を付加し、有機質肥料を混ぜ合わせて適切な状態で管理してつくられた人工土壌の名称です。
国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構が開発した技術に基づき、(株)TOWINGが栽培システムとして実用化しました。